

第3回産科医療研究会 結果概要

○日 時：令和6年8月27日（火）15：00～16：30

○場 所：兵庫県民会館7階「亀」

○出席者：別紙のとおり

○議 事：県内医療機関（新生児科医）へのアンケート結果および昨年度のアンケート
内容の振り返り

産科・新生児医療の状況をふまえた対応の方向性

（1）事務局からの説明

（2）意見交換

○主な意見

- 医療提供側は、今、提供できている医療がぎりぎり、打開策は集約しかないということ
を市町、県民に知ってもらう必要がある。
- 産婦人科よりも、新生児科医が少なくなっており、集約化はある程度仕方がない。しか
し、大病院でローリスクの妊産婦とハイリスクの妊産婦に対するケアを同じにはできない
ため、一次施設の存在意義がある。
- 産科、分娩施設のない地域が増えている以上、解決策の1つが集約化であり、その際に妊
婦の交通手段を考える必要があるが、タクシーの確保すら難しい地域もある。場合によっ
ては救急車の使用も選択肢になってくるのではないかと。
- 東京から人を取るぐらいの心づもりで、兵庫県の魅力をどうアピールするのか、その財政
支援を一緒に考えないと医師は簡単に増えない。
- 妊婦タクシーも救急車同様、タクシー会社から妊婦を乗せることに対する不安の声を聞
く。交通アクセスを拡大するならタクシー会社への研修に対する助成金も大事ではない
かと。
- 集約化する場合は、24時間体制で対応できる麻酔科医の確保が必要である。
- 分娩が保険診療になると、さらに分娩を休止する医療機関が増えると考えられる。
- 時間外や当直等にインセンティブを考えないと、医師のモチベーションにつながらない。
しかし、一方で、病院の経営と他科とのバランスを考慮する必要がある、
- 女性医師が増えているので、長時間勤務を改善する必要がある。また、分娩数が減ってい
るため、医師の育成の関係から症例数を確保する意味でも集約化は避けて通れない。しか
し、それだけでは妊婦からすればアクセスが困難だという側面があり交通、救急車、宿泊
へのサポートは市町が力を発揮すべきところだ。
- 半数が女性医師であるため、女性医師が働きやすい職場だと潜在的に産婦人科が増えるの
ではないかと。
- 突破口として産科や小児科の分野に特化した施策を実施し、その効果を判定するためにや
ってみてはどうか。